

ふるさとの家

furusato-huis



Newsletter vol.1 21 July 2021

皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

コロナ禍で行動規制がある中、皆さんに集まっていたいで説明会を開くことも出来ない状況が1年が過ぎました。今後はニュースレターという形で「ふるさとの家」の進行過程を皆様にお知らせしていこうと思います。

これまでの経過

プロジェクトチームの設立

2020年1月長田、河南が建築家吉良森子氏の事務所に日本人の高齢者が集まって暮らす場所の必要性を相談しました。吉良氏からは日本人だけの住まいを計画することは難しいが、日本文化を基盤としたマルチカルチャーな住まいであれば、アムステルダムの住宅政策にも適合する可能性があるかもしれない、とアドバイスをうけました。そこで高橋真由美、Michel Bouquet (福祉の専門家)、Paul Nijhout(不動産計画の専門家)氏らと「ふるさとの家」プロジェクトチームを作ろう、ということになりました。



吉良森子氏の事務所での話し合い



Michel Bouquet氏と Paul Nijhout氏

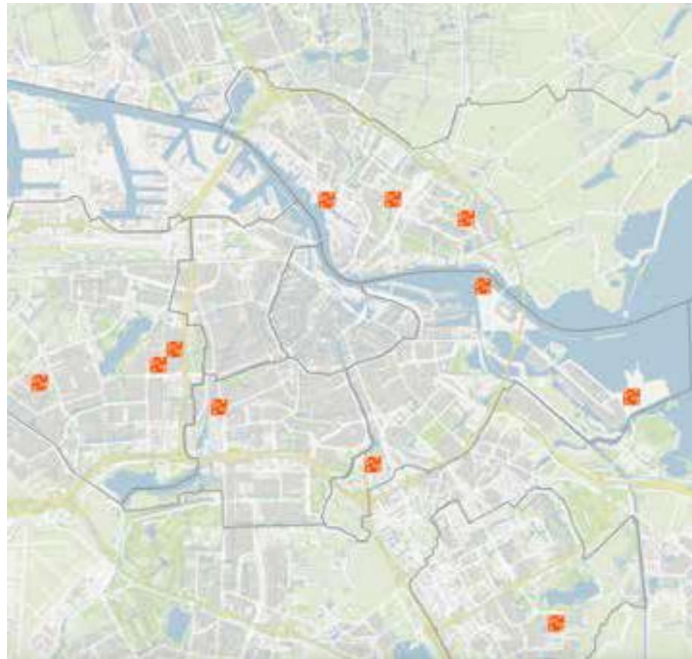
コンセプトブックレットの作成

1月から「ふるさとの家」のビジョン、コンセプトを説明するブックレットの作成を行いました。アムステルダム市の住宅政策の職員、住民主体の住宅開発を手がける専門家にもアドバイスをいただき、9月に完成しました。



アムステルダム市の敷地

「ふるさとの家」を実現する可能性の一つとして、11月にアムステルダム市が提唱している Wooncooperatie project の用地を4箇所見に行きました。敷地はアムステルダムの歴史的市街地の外縁に計画されていますが、日本人が親しみやすく、行きやすい場所と考えられるのは南エリア、アムステル駅エリアの敷地ではないかと思いました。



アムステルダム市が計画している組合形式のプロジェクトの敷地

アムステルフェーン市との話し合い

2021年4月アムステルフェーン市のJ. Rikkoert氏他とZOOM meetingを行い、「ふるさとの家」のビジョンのお話をしました。

その後、アムステルフェーン市から今後開発の可能性のある場所のリストを送っていただき、その中から可能性のある場所をいくつか見学に行きました。アムステルフェーン市の計画は大規模かつ高所得者向けの用地が主流で、自力での開発はなかなか困難ではないかと思いました。

Museum Het Schip でのプレゼンテーション

2021年7月アムステルダムの博物館Het Schipに勉強会に行きました。Het Schipは20世紀の初めに住民の組合によって作られた集合住宅です。今でも80世帯が暮らしていて、一部がオランダの組合による集合住宅の博物館になっています。館長さんのAlice Roegholtさんにお話を伺い、高橋真由美さんが「ふるさとの家」の説明をしました。日本文化を基盤として、多様な人がともに暮らす場を目指す「ふるさとの家」のビジョンに賛同していただき、今後「ふるさとの家」の計画に向けたワークショップなどへの協力を約束していただきました。



Museum Het Schipの前で館長さんAlice Roegholt氏と記念撮影

6回開催されたZoom説明会／ワークショップについて

2020年12月8日から2021年1月14日の期間にワークショップ／説明会をZOOM で開催しました。多くの皆さんに「ふるさとの家」のビジョンをお話をし、たくさんの貴重なアイデア、ご意見をいただきました。ワークショップには総勢33名が参加してくださいました。皆さんありがとうございました。皆さんの質問やご意見をうかがって、ますます「ふるさとの家」の夢がふくらんでいます。

「ふるさとの家」のコンセプトは一口で言いますと囲碁会館で行ってきたような活動が行われる場所と集合住宅住居を組み合わせた建物を自分たちで運営していくというコンセプトです。要介護者のグループホーム、留学生、単身赴任の人たちの住居、低所得者用住宅、フリーセクターの住宅を組み合わせ、1階にはコミュニティの活動場所、シェアオフィス、展示会場、コンサートスペース、店舗などの場所を設けて、文化交流を行って行きたいと夢を描いています。

説明会/ワークショップでは①「ふるさとの家」のコンセプトと規模。②場所をどのように探しているか。③ファイナンスの話をどうするのか、をプロジェクターを使い説明し用地の写真も見ながら説明しました。

ZOOM 説明会では以下のような質問がありました。

Q ふるさとの家は終の棲み家住宅だから終末期で24時間看護が必要になったらオランダの施設に入るのか。

A ホームドクターの判断でオランダの在宅看護サービスを保険で受けることができるので、ふるさとの家に最後までいることができる。治療が必要なときは病院に入院する。「ふるさとの家」では日本の看護師、介護士のワーキングホリデーなどの可能性を模索したいと考えています。

Q 相互に助け合う仕組みをつくって老後のクオリティオブライフを高めるのは素晴らしいが、子どもたちとの交流ができるか？子どもがある家族は入居できるか？

A 家族が入れるような大きな住居はたくさんあるので、「ふるさとの家」では現在不足している一人暮らし、あるいはパートナーとの二人暮らしの人の住宅を考えています。学校や地域と繋がった生活を営む子供のいる家族と異なり、一人暮らしの人は、孤独化しやすく、サポートを必要とすることも多いのです。コミュニティの空間では文化交流とともに子ども連れで活動できる活動も考えていきたいと思っています。

私たちは「ふるさとの家」の実現に向けて、7月8日にStichting Furusato Huis Project を設立しました。次回のニュースレターではこの財団の今後の計画についてお話をしたいと思います。今後は皆さんとお目にかかってワークショップを行う機会も作ってきたいと思います。これからも引き続きよろしくお願いいたします。

Stichting Furusato Huis Project

代表 河南笑子